

2.9. 情報システム構築学講座

2.9.1. 講座の概要

(a) 講座の簡単な説明, キーワード

情報システム構築学講座のモットーは「ソフトウェアのエジソンになろう」,そして「理論指向型現場主義」である。ソフトパワーの時代,21世紀の核となる情報システム構築法の研究を行ない,新時代のリーダーを世の中に多数輩出することが当講座のねらいである。具体的には,企業情報システムのモデル化,地域情報ネットワークの構築法,ユーザ自身が開発できる新しいソフトウェア開発手法等に関する研究・教育を進めている。ここには,企業や地域社会における情報システムに対する問題点・ニーズを抽出し,ヒューマンインターフェース,データベース,ソフトウェア,ネットワーク等の要素技術を総合してユーザにとって最適な情報システムをいかに効率的に構築するかという大きな課題がある。また,当講座は岩手県に対して具体的な情報システム構築によって直接貢献するために,地元企業や,市町村,地域と連携したプロジェクト活動の推進も行っている。コース科目「情報システム演習A,B,C」の中では,学生が岩手県というフィールドに飛び込み,密着・調査し,現場の中から研究課題を発掘するといった体験的な学習を実施している。この演習により,机上ではわからなかった新しい発見もあり,学生も生き生きと勉学意欲を燃やしている。さらに,保健・医療・福祉,農業・環境教育といった異なる分野の研究者と協力し,より広い視点からの問題解決を図る活動も進めている。例えば,これまで川井村,紫波町,遠野市において「ライフサポートネットワーク」の構築をめざし,独居高齢者見守りシステム,健康増進支援システム,食育ネットワークなどを開発し,導入実験を行った。このような具体的な研究開発を行う中から,より効率的で信頼性の高い開発手法や開発プロセスそのものを評価分析し,理論体系化を図るとともに,ユーザ指向型開発環境の構築に関わる研究成果をまとめ,国際会議等で定期的に発表している。また,革新的ソフトウェア開発手法の確立を目指し,ソフトウェア戦略研究所(ARISES: Advanced Research Institute on Software Strategies), SoMeT (Software Methodologies, Tools and Techniques), EJC(European Japan Conference on Information Modeling and Knowledge Bases)等国際会議や,国際シンポジウムへの参画・活動も積極的に行っている。このように,現場から理論,地域から世界まで,当講座の活動範囲は多様化・高度化している。

キーワード: ユーザ指向ソフトウェア開発手法, 保健医療福祉情報システム, 農業情報システム

(b) 年度目標

ユーザ指向ソフトウェア開発手法に関する国際会議発表2件以上,地域ユーザの視点からの情報システム開発を2件以上,学生による全国大会・研究会等での発表を8件以上とする。

(c) 講座構成教員名

佐々木淳, 山田敬三

(d) 研究テーマ

- ユーザ指向型システム開発手法の研究
- 生活支援情報システム
- 食育・農業支援情報システム

(e) 在籍学生数

博士(前期):6名, 博士(後期):1名, 卒研生:9名, 研究生:0名